

奄美大島南部における植物採集記録

森田 康夫*

The report of the plant collection on the southern area of Amami-osima Island, Kagoshima Prefecture
Yasuo MORITA

はじめに

奄美大島は、九州南端から南西に約380km余り離れた南西諸島の中ほどに位置する島で、南北約57km、幅は最も広い南部で約29km、面積は沖縄本島、佐渡島に次ぐおよそ720km²で、日本では3番目に大きな島である。年平均気温は21℃前後、年間降水量は3,000mmに達し、亜熱帯の温暖湿潤な気候下にある。島の地形は北部の笠利半島は幾分低い丘陵地からなるものの、中南部は急峻な山岳地が多く、最高点は湯湾岳の694mで、南部は500m前後の山地が連なっている。海岸線の多くは複雑なりアス式海岸からなり、険しい海食断崖が各地に見られる。河川はいずれも小さく急流で、中央の分水嶺を境にして東シナ海側に注ぐものと太平洋側に注ぐものに分かれる。太平洋側に注ぐ河川の一部では、河口付近が泥湿地化しマングローブの発達した地域もある。また奄美大島のすぐ南方には、大島海峡をはさんで面積77km²の加計呂麻島が、属島として複雑な入り江を形成しつつ東西に長く横たわっている。

奄美大島の植物相については、19世紀中頃から欧米の探検家による収集がはじまり、その後19世紀終わり頃から日本人による収集が行われるようになって、これまでに数多くの報告がなされている。それらの集大成として初島住彦は1971年に『琉球植物誌』を出版し、奄美を含む琉球列島全域の植物相について詳しく述べている。それによると、この地域は沖縄諸島と共に最も早くアジア大陸から分離した所で、生物学的に注目すべき日本列島最古の東洋区の生物相を見ることが出来る地域といわれており、特に奄美大島と属島の加計呂麻島には、23種の固有種および固有亜種があるとし、その他にも奄美大島と徳之島に限られた種、それらに沖縄本島を合わせた固有種など、この地域に限定された数多くの固有な植物の存在を紹介している。

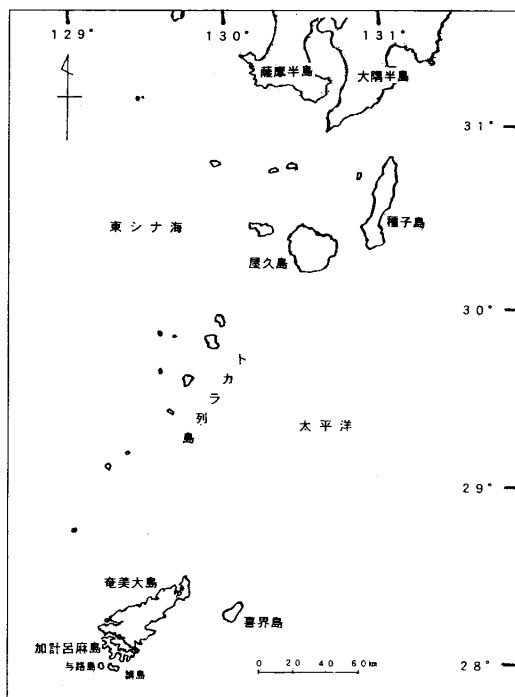


図1 奄美大島位置図

* 〒 892-0853：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

当県立博物館においては、以前からこの地域の植物相の多様性に注目し、各種の調査や資料収集の実現を図ってきた。当館の収蔵植物資料におけるこの地域の収蔵数は相当な量に達しているが、それでも未収集の種も多く、年度ごとに各島々での収集を実施している。

今回、当館の収蔵資料を補い、さらに分布上特異な種の自生の確認とその採集を目的として、2004年の12月2日から4日までの3日間にわたり、当博物館の『触れ見る知る自然資料収集整備事業』の一環として奄美大島南部と加計呂麻島における植物資料の収集を実施したのでその結果を報告する。3日間という短い期間を有効に利用するため、島内の植物地理に詳しい田畑満大氏に同行を依頼した。田畑氏は長らく大島郡内の小学校教諭として勤務し、現在奄美看護福祉専門学校薬草学科の講師として活躍しており、さらに当館が1996年に刊行した「鹿児島島の自然調査事業報告書 奄美の自然」における『徳之島の植物』の執筆者でもある。

このほか、疑問種等の同定で鹿児島大学名誉教授の初島住彦氏と当館元学芸指導員の丸野勝敏氏、収蔵資料の標本化と同定で植物ボランティアの篠崎チサ氏にもお世話になった。この場を借りて厚くお礼申し上げる。

1 資料採集地の概要

主な採集地の状況についてその概略を述べる（図2参照）。

(1) 曾津高崎 [奄美大島南部、瀬戸内町と宇検村との境]

奄美大島本島最南西端に位置する岬で、急峻な絶壁に囲まれた地域である。急斜面にはハチジョウススキ等の草本群落が形成され、尾根沿いは風衝低木林が発達している。北限種のオキナワマツバボタンやサコスゲなどを採集した。

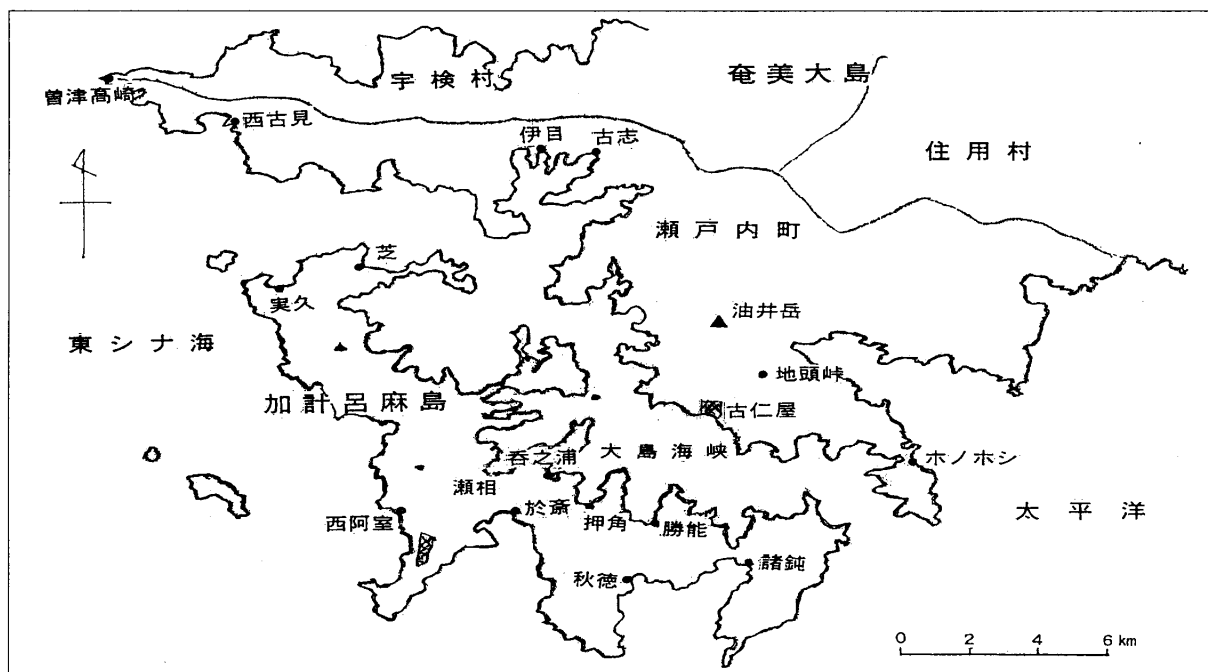


図2 奄美大島南部の植物採集地点

(2) 西古見～伊目～古志間の県道 [奄美大島南部, 瀬戸内町]

大島海峡に臨む県道沿いの海岸泥地や道路脇の林縁である。北限種のサキシマハマボウやシノキカズラ等を採集した。

(3) ホノホシ海浜公園 [奄美大島南部, 瀬戸内町]

奄美大島本島の最南東端に位置する海岸で、太平洋の荒波に侵食された丸い玉石の堆積する海岸線となっている。海岸植生はやや貧弱であるが、後背地にはアダン群落や風衝低木林が発達している。北限種のオキナワギクやイソノギクなどを採集した。

(4) 加計呂麻島 [瀬戸内町]

2日目は、古仁屋港からフェリーで対岸の加計呂麻島瀬相港に渡り、丸1日島内を移動して採集を行った。西阿室では、カケロマカンアオイの確認をめざして山林内に入り、タブノキやスダシイからなる照葉樹林内を探索した。その他、島内の林道沿いの路傍や海岸の砂浜、岩上等での採集を実施した。カケロマカンアオイは確認できなかったが、北限種のサキシマスオウノキやサガリバナ、ホソバムクイヌビワ等を採集した。

(5) 油井岳 [奄美大島南部, 瀬戸内町]

古仁屋市街地の北側にそびえる標高484mの山で、頂上付近は公園化され遊歩道も整備されている。尾根伝いに走る道路沿いの林縁で、北限種のアカメイヌビワやウラジロカンコノキ等を採集した。

2 採集した植物について

表は今回の調査で採集した植物資料の一覧である。合計36科80種の高等植物を採集し標本にして収蔵した。短期間で限られた場所のみでの調査であるため採集種数はそれほど多くないが、奄美大島が北限となっている種など分布上注目すべき多くの種を再確認し、採集することができた。さらに新たな帰化植物と思われる植物も3種確認することができた。なお、当博物館では初めての収蔵資料となる植物も5種採集している。以下、採集したこれらの植物について若干の知見を述べる。

(1) 琉球と共通の固有種で、奄美大島を北限とする植物 [表の備考欄では、固有,北限と記載]

① オキナワマツバボタン *Portulaca okinawensis* スベリヒユ科

南西諸島固有の常緑の多年生草本で、海岸に面した岩場などに生える。分布の北限にあたる奄美大島でも生育地は限られており、これまで大和村の今里など数カ所しか知られていない。今回、瀬戸内町と宇検村の境界線沿いにある曾津高崎の海岸で採集したが、生育個体数はごくわずかであった。

② シナヤブコウジ (シナマンリョウ) *Ardisia chinensis* ヤブコウジ科

日本では徳之島と奄美大島だけの林内に生育し、他に台湾と中国南部に知られる常緑の小低木である。奄美大島での記録も少なく、加計呂麻島での採集も今回が初めてと思われる。シシアクチによく似るが、より小さくほふく茎があって、黒い小型の果実がつく点異なる。西阿室東方の山中で採集した。

表 奄美大島南部植物収集資料一覧

採集地の(加)は加計呂麻島を表す

シダ植物 Pteridophyta

科名	和名	学名	採集地	備考
ホンゴウシダ科	ハマホラシノブ	<i>Sphenomeris biflora</i>	曾津高崎	

[計 1科 1種]

種子植物 Spermatophyta 被子植物 Angiospermae 双子葉類 Dicotyledoneae

科名	和名	学名	採集地	備考
センリョウ科	センリョウ	<i>Sarcandra glabra</i>	(加)西阿室山中	
ブナ科	マテバシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>	(加)西阿室山中	
クワ科	ホソバムクイヌビワ	<i>Ficus ampelas</i>	(加)諸鈍	北限
	アカメイヌビワ	<i>Ficus engutensis</i>	油井岳	北限
	オオイタビ	<i>Ficus pumila</i>	(加)芝	
イラクサ科	ツルマオ	<i>Gonostegia hirta</i>	油井岳	
	ハドノキ	<i>Oreocnide pedunculata</i>	油井岳	
タデ科	イタドリ	<i>Keynoutria japonica</i>	地頭峠	
スベリヒユ科	オキナワマツバボタン	<i>Portulaca okinawensis</i>	曾津高崎	固有, 北限
ナデシコ科	ヒメハマナデシコ	<i>Dianthus kiusianus</i>	(加)実久	
ラフレシア科	ヤッコソウ	<i>Mitrastemon yamamotoi</i>	(加)西阿室山中	希少
ツバキ科	サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>	曾津高崎	
	イジュ(ヒメツバキ)	<i>Schima wallichii</i>	(加)押角	北限
マメ科	シイノキカズラ	<i>Derris trifoliata</i>	伊目	北限
	トキワヤブハギ	<i>Desmodium podocarpum</i> subsp. <i>oxyphyllum</i>	(加)西阿室山中	
	クロヨナ	<i>Pongamia pinnata</i>	伊目	
	タンキリマメ	<i>Rhynchosia volubilis</i>	曾津高崎	
	オオヤブツルアズキ	<i>Vigna reflexo-pilosa</i>	(加)西阿室	
	ハマアズキ	<i>Vigna marina</i>	(加)芝	
トウダイグサ科	エノキフジ	<i>Discocleidion ulmifolium</i>	西古見	北限, 初
	シマシラキ	<i>Excoecaria agallocha</i>	伊目	
	カキバカンコノキ	<i>Glochidion zeylanicum</i>	(加)押角	
	ウラジロカンコノキ	<i>Glochidion acuminatum</i>	油井岳	
アオイ科	サキシマフヨウ	<i>Hibiscus makinoi</i>	(加)呑之浦	
	オオハマボウ	<i>Hibiscus tiliaceus</i>	伊目	
	サキシマハマボウ	<i>Thespesia populnea</i>	伊目	北限
	オオバボンテンカ	<i>Urena lobata</i>	油井岳	
アオギリ科	サキシマスオウノキ	<i>Heritiera littoralis</i>	(加)呑之浦	北限, 初

科名	和名	学名	採集地	備考
スミレ科	リュウキュウシロスマレ	<i>Viola betonicifolia</i> var. <i>oblongo-sagittata</i>	油井岳	
	リュウキュウコスミレ	<i>Viola pseudo-japonica</i>	(加)秋徳	
グミ科	タイワンアキグミ	<i>Elaeagnus thunbergii</i>	(加)西阿室山中	
サガリバナ科	サガリバナ	<i>Barringtonia racemosa</i>	(加)勝能	北限
ウコギ科	フカノキ	<i>Schefflera octophylla</i>	(加)実久	
ミズキ科	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	油井岳	
ツツジ科	ギーマ	<i>Vaccinium wrightii</i>	地頭峠	北限
ヤブコウジ科	シシアクチ	<i>Ardisia quinquegona</i>	(加)西阿室山中	
	シナヤブコウジ	<i>Ardisia chinensis</i>	(加)西阿室山中	固有, 北限
	モクタチバナ	<i>Ardisia sieboldii</i>	油井岳	
エゴノキ科	ケエゴノキ	<i>Styrax japonica</i>	(加)諸鈍	
リンドウ科	ヘツカリンドウ	<i>Swertia tashiroi</i>	曾津高崎	
ガガイモ科	イヨカズラ	<i>Cynanchum japonicum</i>	曾津高崎	
クマツヅラ科	オオムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	油井岳	
シソ科	ヤンバルツルハッカ	<i>Leucas mollissima</i> var. <i>chinensis</i>	曾津高崎	
	ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>	(加)西阿室	
ナス科	ハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i>	(加)西阿室	
アカネ科	ビシンジュズネノキ	<i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>intermedius</i>	(加)西阿室山中	
	タイワンルリミノキ	<i>Lasianthus cyanocarpus</i>	(加)秋徳	北限, 初
	ボチヨウジ	<i>Psychotria rubra</i>	(加)西阿室山中	
	シラタマカズラ	<i>Psychotria serpens</i>	油井岳	
ウリ科	クロミノオキナワズメウリ	<i>Melothria liukuensis</i>	油井岳	固有, 北限
キキョウ科	マンシュウツリガネニンジン	<i>Adenophora pereskiiifolia</i>	曾津高崎, 各地 の路傍	帰化植物 初
	マルバハタケムシロ	<i>Lobelia loochoensis</i>	ホノホシ	固有, 北限
キク科	カッコウアザミ	<i>Ageratum conyzoides</i>	(加)西阿室道路	帰化植物
	オキナワギク	<i>Aster miyagii</i>	ホノホシ	固有, 北限
	シロバナセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>	西古見北側林道	
	コヤブタバコ	<i>Carpesium cernuum</i>	油井岳	
	ホソバワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>	(加)呑之浦	

科名	和名	学名	採集地	備考
キク科	オオシマノジギク	<i>Dendranthema crassum</i>	曾津高崎	奄美固有
	ヤマヒヨドリ	<i>Eupatorium variable</i>	(加)勝能	
	イソノギク	<i>Heteropappus ciliatus</i>	ホノホシ, 実久	北限
	アツバジシバリ	<i>Lxeris debilis</i> ssp. <i>liukuensis</i>	(加)芝	固有, 北限, 初
	シマコガネギク	<i>Solidago virga-aurea</i> var. <i>insularis</i>	地頭峠	
	オランダセンニチ	<i>Spilanthes paniculata</i>	(加)西阿室道路	帰化植物
	オオキダチハマグルマ	<i>Wedelia biflora</i> var. <i>ryukyuensis</i>	(加)実久	

[計 30科 64種]

単子葉類 Monocotyledoneae

科名	和名	学名	採集地	備考
イネ科	ヒメアブラスキ	<i>Bothriochloa parviflora</i>	(加)勝能, 油井岳	
	ヘンリーメヒシバ	<i>Digitaria henryi</i>	曾津高崎	
	コウセンガヤ	<i>Chloris radiata</i>	曾津高崎	帰化植物
	アブラスキ	<i>Eccoilopus cotulifer</i>	油井岳	
	オオバチヂミザサ	<i>Oplismenus compositus</i> var. <i>patens</i>	(加)秋徳	
	ハイキビ	<i>Panicum repens</i>	(加)芝	
	シマチカラシバ	<i>Pennisetum sordidum</i>	(加)実久	
	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	油井岳	
	クロイワザサ	<i>Thuarea involuta</i>	(加)芝	
ユリ科	イチハツ	<i>Iris tectorum</i>	曾津高崎	
	ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	(加)西阿室山中	
キンバイザサ科	コキンバイザサ	<i>Hypoxis aurea</i>	油井岳	
カヤツリグサ科	コゴメスゲ	<i>Carex brunnea</i>	(加)呑之浦	
	サコスゲ	<i>Carex sakonis</i>	曾津高崎	固有, 北限
ラン科	ツルラン	<i>Calanthe furcata</i>	(加)西阿室山中	

註: 学名は平凡社刊「日本の野生植物」に従った。

[計 5科 15種]

総計 36科 80種

③ クロミノオキナワズメウリ *Melothria liukuensis* ウリ科

南西諸島の固有種で奄美大島から琉球列島まで分布するつる性の草本である。花は白色

で、果実は暗緑色に熟す。油井岳の遊歩道沿いの林縁で採集した。

④ マルバハタケムシロ (マルバミゾカクシ) *Lobelia loochoensis* キキョウ科

南西諸島の固有種で奄美大島と沖縄諸島に分布する多年草である。海岸の岩場などで地面を這って生育する小型の植物で、生育地も限られている。ホノホシ海浜公園の波打ち際に近い大きな岩上に小さな集団を見つけ、数個体を採集した。

⑤ オキナワギク *Aster miyagii* キク科

同じく南西諸島固有種で、北限の奄美大島と徳之島、沖縄に分布する小型の常緑多年草である。海岸の岩場等に生育するが生育地は限られており、ホノホシの岩場で数十株の小さな集団を確認した。

⑥ アツバジシバリ *Lxeris debilis* ssp. *liukuensis* キク科

南西諸島の固有亜種で、奄美群島と沖縄に分布する常緑の多年草である。海岸の砂浜に生育するが、それほど個体数は多くない。加計呂麻島の西方の芝集落の海岸砂丘で採集した。当館初収蔵の資料である。

⑦ サコスゲ *Carex sakonis* カヤツリグサ科

南西諸島固有種で、奄美大島の他、宝島と徳之島、沖縄に記録がある。鹿児島大学農学部の故迫静男氏を記念して名付けられたスゲのなかまで、海岸近くの岩場などに生育する。曾津高崎の林縁で採集した。

(2) 奄美以南に広く分布し、奄美大島を分布の北限とする植物 [備考欄では、北限と記載]

① ホソバムクイヌビワ *Ficus ampelas* クワ科

奄美大島を北限とし、沖縄、先島諸島、台湾以南の熱帯地域に分布するイチジク属の常緑小高木である。若い枝にはかたい毛が生えざらつく特徴があり、奄美大島では山地の林内や林縁で普通に見られる樹木である。加計呂麻島の諸鈍集落近くの道路沿いで採集した。

② アカメイヌビワ *Ficus engutensis* クワ科

同じく北限種で、奄美大島以南からフィリピン付近まで分布するイチジク属の常緑高木である。名のとおり新葉が赤褐色になる特徴があり、山地の林縁などに生える。油井岳山頂付近の遊歩道の林縁で採集した。

③ イジュ(ヒメツバキ) *Schima wallichii* ツバキ科

奄美大島を北限とする常緑低木で、琉球から台湾まで分布している。奄美では林内にごく普通に見られ、街路樹としても植栽されている。花期は初夏であるが、加計呂麻島の押角集落の近くで季節はずれの花が咲いていたので採集した。

④ シイノキカズラ *Derris trifoliata* マメ科

奄美大島から東南アジアの熱帯域まで広く分布するつる性の常緑木本で、北限にあたる奄美大島でも、生育地は瀬戸内町などの南部に限られている。今回は大島海峡沿いの瀬戸内町伊目集落と古志集落間の海岸線の林縁で、サキシマハマボウと共に採集した。

⑤ エノキフジ *Discocleidion ulmifolium* トウダイグサ科

奄美大島北限で、琉球、台湾に分布する常緑の低木である。本県での採集記録はほとん

どなく、環境省の絶滅危惧ⅠA類に指定されているが、県版レッドデータでは情報不足となっている。今回、瀬戸内町と宇検村の境をとる林道から瀬戸内町の西古見集落へ降りる道路沿いで数株を見つけ採集した。当館初収蔵の資料である。

⑥ ウラジロカンコノキ *Glochidion acuminatum* トウダイグサ科

奄美大島から東南アジアの熱帯域まで広く分布する常緑の小高木である。葉の裏が白くなるのが特徴で、林内に普通に見られる。油井岳の道路沿いで採集した。

⑦ サキシマハマボウ *Thespesia populnea* アオイ科

奄美大島南部以南の熱帯アジアに分布する常緑の小高木で、海岸の砂浜などに生える。採集地は、シイノキカズラと同じく伊目集落と古志集落間の海岸沿いの小さな砂浜で、オオハマボウと共に10個体程がまとまって生育しており、花や実も採集することができた。

⑧ サキシマスオウノキ *Heritiera littoralis* アオギリ科

奄美大島以南から広くアジア、アフリカの熱帯域に分布する常緑高木で、巨大な板根を形成する樹木として有名である。奄美大島では海岸近くの塩性の泥湿地に数カ所の生育地がある。今回、加計呂麻島の呑之浦にある島尾敏雄文学碑近くの海岸で数本の小高木を見つけ採集した。これも当館初収蔵資料である。

⑨ サガリバナ *Barringtonia racemosa* サガリバナ科

この種も奄美大島以南の旧熱帯地域に広く分布する常緑の小高木で、塩性湿地の後背部に希に見られる。大島でも各地に自生地が知られているが、個体数は激減しているといわれている。加計呂麻島の勝能集落内で採集地した。

⑩ ギーマ *Vaccinium wrightii* ツツジ科

奄美大島以南から台湾にかけて分布するスノキ属の常緑低木で、大島本島では林縁等で割合普通に見られる。油井岳東側の地頭峠の旧道で採集した。

⑪ タイワンルリミノキ *Lasianthus cyanocarpus* アカネ科

奄美大島以南から台湾にかけて分布する常緑の低木で、やや湿った林内に希に生える。奄美諸島での採集記録は少なく、県の絶滅危惧類に指定されている。加計呂麻島の秋徳集落近くの林縁で採集した。当館初収蔵の資料である。

⑫ イソノギク *Heteropappus ciliosus* キク科

奄美群島以南、沖縄、中国華南域に分布する多年草で、海岸の草地に集団で生育する。今回は、ホノホシ海岸と加計呂麻島の西端の実久の海岸で採集した。

(3) その他の特筆すべき植物 [備考欄では、希少、帰化植物と記載]

① ヤッコソウ *Mitrastemon yamamotoi* ラフレシア科

四国南部から九州南部、南西諸島の照葉樹林下に生育し、シイ属の樹木の根に寄生する植物である。加計呂麻島の西阿室の山中で、スダシイに寄生した集団を数カ所確認した。

② マンシュウツリガネニンジン *Adenophora pereskiifolia* キキョウ科

中国東北部や朝鮮半島に分布するツリガネニンジン属の一種で、1993年に熊本県の阿蘇で最初に確認された植物である(初島 1994)。九州一帯に自生するサイヨウシャジンと異

なり、茎の先端から円錐花序を出す。鑑定した初島住彦氏によると、満鮮系の植物で道路ののり面に吹き付けられた土中の種子に起因するとのことである。奄美大島南部と加計呂麻島の路傍で多数の個体を確認したが、奄美にはこの他リュウキュウシャジンやナンゴクシャジン等の記録もあり、今後詳細な研究が必要と考えられる。当館初収蔵。

③ カッコウアザミ *Ageratum conyzoides* キク科

熱帯アメリカ原産の帰化植物で、関東以西と奄美・琉球に帰化している。今回採集した場所は、加計呂麻島の西阿室～嘉入間の道路工事現場の路傍で、道路沿いに広く群生していた。

④ オランダセンニチ *Spilanthus paniculata* キク科

熱帯地域原産の1年生の園芸植物である。採集した加計呂麻島の工事現場路の傍付近に人家はなく、植栽されていた個体の種子が車両等に付着していたか、外部から持ち込まれた土に含まれていたと考えられる。一帯の道路脇には多数の個体が群生していた。

⑤ コウセンガヤ *Chloris radiata* イネ科

熱帯アメリカ原産の帰化植物で、関東・東海地方や小笠原、琉球に帰化の記録がある。採集地は曾津高崎手前の路傍で、種子が人為的に持ち込まれたものと思われる。

(4) カケロマカンアオイ *Heterotropa trinacriformis* (ウマノスズクサ科) について

カケロマカンアオイは、奄美大島南部の一部と加計呂麻島および請島に固有の常緑の多年草である。今回の調査は、絶滅危惧種で県の希少野生動植物保護条例にも指定されているこの植物の生育状況を確認することも目的としていた。ガイドの田畑満大氏と西阿室在住のイノシシ猟をする男性に案内され、西阿室と伊子茂集落の間にある標高200～300mのスタシイ林内を3時間あまりにわたって探し廻った。案内人によると、数年前に名瀬市から来た複数の人に、地元ではヤマゴボウ又はヤマツバシャと呼ばれるこの植物が、万病に効能のある薬草だということで採取させたとのこと、すでに採集され尽くしたのか全く見つけることができなかった。田畑氏によると、於斎集落付近の自生地もすでに絶滅したとのこと、加計呂麻島におけるカケロマカンアオイは絶滅に近い状況ではないかと危惧される。

おわりに

以上、奄美大島南部および加計呂麻島において収集した36科80種の植物についてその概要を報告した。わずか3日間という短い期間であり採集した場所も限られているが、オキナワマツバボタンやマルバハタケムシロなど南西諸島固有種で当地が北限にあたる7種類の植物と、エノキフジやサキシマスオウノキなど熱帯アジアに広く分布し当地が北限にあたる12種の植物、さらに新たな帰化植物や分布上貴重な植物を採集し標本として収蔵することができた。しかもそのうち5種類は当館における初収蔵種であり、貴重な標本を得ることができたと考えている。

また一方では、カケロマカンアオイのように環境省並びに県の絶滅危惧種および保護動植物条例に指定され、現在加計呂麻島やその周辺でしか存在が知られていない植物についてもその確認を試みたが、生育地といわれる加計呂麻島西阿室集落東方の山中を、地元人の案内で探したにも

かかわらず見つけることはできなかった。

奄美大島南部地域と加計呂麻島周辺は、奄美・沖縄に生育する熱帯・亜熱帯植物の北限地として、あるいは九州本土に生育する温帯植物の南限地として、植物の分布をみる上で非常に重要な位置にあると考えられる。この地は複雑に入り組んだリアス式海岸に囲まれた急峻な土地が多く、多様な植物を育成する環境に恵まれている。しかし、過疎化は進んでいるものの、人間活動に伴う土地利用もかなり進み、林道や砂防ダム建設、護岸工事などの開発は各地で実施されている。そのため、植物の生育状況も環境の変化に伴って悪化の一途をたどっているように思われる。分布上貴重な植物がこれ以上失われることのないように保護の手を加えていくとともに、今後も植物の調査や資料収集を継続的に実施し、この地域の植物相の解明に努めていく必要がある。

引用・参考文献

- 大野照好, 1996, 奄美の植物, 奄美の植生. 鹿児島県の自然調査事業報告書Ⅲ 奄美の自然, 27-37, 鹿児島県立博物館
- 鹿児島県環境生活部環境保護課, 2003, 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編一鹿児島県レッドデータブッカー. 財団法人鹿児島県環境技術協会
- 環境庁自然保護局野生生物課, 2000, 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブッカーー8. 植物Ⅰ
- 佐竹義輔他・編, 1981, 日本の野生植物草本Ⅰ～Ⅲ. 平凡社, 東京
- 佐竹義輔他・編, 1989, 日本の野生植物木本Ⅰ～Ⅱ. 平凡社, 東京
- 清水健美・編, 2003, 日本の帰化植物. 平凡社, 東京
- 初島住彦, 1971, 琉球植物誌. 16-20, 38-55, 沖縄生物教育研究会, 沖縄
- 初島住彦, 1986, 改訂鹿児島県の植物目録. 1-290, 鹿児島
- 初島住彦, 1994, 日本新産のマンシュウツリガネニンジンに就て. 鹿児島の植物, 13, 42-43, 鹿児島植物同好会